



本号は、一般社団法人「すこやかのかいふくしま」とNPO法人「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」のニュースレターの合併号として、2つの法人の活動の報告をします

116名の卒園生へ食料支援を届けました

「すこやかのかいふくしま」と「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」の共同事業『食料支援』は最終的に116名に贈ることができました。このうち63名に施設の担当者が手渡しをしてくれて、卒園生が対面で受け取ることができました。

今回は、施設の担当者に食品選びもお願いしたところ、事前に卒園生に連絡を取り、希望を聞いてくれたり、週末以外は食事が提供されるグループホームに入所中の卒園生の調理しない食品(写真左)を別に揃えてくれた施設もありました。

卒園生から、「初めて頂いたが、とても嬉しかった」「1人暮らしをしてる友達が仕送りで食材とかをもらっていて憧れがあった。もらえて嬉しかったです」「頭痛がひどい時がたまにあるのと非常時の準備をしていなかったのでもとても助かりました！」

「本当に生活に困っていたところだったので、ありがたかったです」「時間のかかる自炊が緩和されてとても嬉しいです」「すごく助かる。これからもあったらいい」「毎年くださってすごい助かってます」等の感想が届きました。今年も継続する予定です。



健康手帳をどのように利用しているか？

1. アンケート調査を実施「健康手帳が役に立った」は55.6%

児童養護施設を卒園する時に贈った健康手帳について、食料支援の感想と一緒にグループフォームで尋ねると卒園生36名が回答をくれました。

健康手帳が役に立ったという回答は20名(55.6%)。理由は「注射の記録とアレルギー検査が役に立ちました」「便利」ということでした。

一方、役に立たなかった7名(19.5%)、理由は「使う場面がなかった」「お薬手帳など代用してしまうことが多いため」でした。

その他、紛失5名(13.9%)、4名は健康手帳開発前の卒園だったため、手帳をもらっていない卒園生でした。

過去に受けた甲状腺検査について尋ねてみました。その結果、施設にいるとき受けた覚えがあるのは14名(39%)、一方で覚えていないのが15名(41.5%)でした。さらに、施設を退所した後に検査を受けたのは7名(19.5%)でした。

甲状腺検査を受けたいかを尋ねると「検査を受けたい」10名、「受けてもよい」12名でした。受けたいという希望者には、施設を通して連絡を取りましたが、日程の都合などで今年はまだ検査を実施できていません。

2. アフターケア担当職員による聞き取りも実施

食料支援を渡す時に、施設のアフターケア担当職員に聞き取りをしてもらいました。

「健康手帳が役に立った」のは13名のうち3名、それ以外は児童養護施設を卒園する健康手帳をもらった時だけ見たので、「あまり役に立たなかった」という回答でした。

健康手帳を開いて見る時は体調が悪いと感じた時で、開いたことはないが持っている人と安心という人もいました。

次に健康手帳を保管してある場所について尋ねると、全員がわかっていて、保管場所はわかっていても開いたことがないようでした。今回は施設職員にどのように健康手帳を活用するかを話してもらい、必要なときに

見てもらえる当初の目的は達成できているのかもしれませんが。

甲状腺検査については、2011年被災時に福島にいた12名のうち、8名が覚えていて、さらに本会が施設内で実施した検査を7名が覚えていました。今後、交通費が支給されたら甲状腺検査を受けに行くかの問いには、「受けに行く」2名、「検査場所による」1名、「受けに行かない」9名でした。

前号のニュースレターで紹介した甲状腺がんの発症状況からは、定期検査を受けて早期発見が大切で、これを卒園生に理解してもらえる働きかけをしていこうと考えています。

卒園生に「健康手帳」、体温計、バンドエイドを贈りました

今年3月に卒園した18名に健康手帳を贈りました。このうち、原発事故が起きた2011年3月に福島に在住していなかった若者には、甲状腺検査、ホールボディカウンター等の被曝モニタリング検査の記載欄を設けない、成長や学校検診や施設入所中の健康の記録をまとめた「健康手帳(全国版)」を贈りました。現在、入所児童のうち1/3のみが、2011年に福島に住んでいて福島県民健康調査甲状腺検査受付番号を持っています。

健康手帳はA4判の冊子体で保管が難しくなっています。冊子で渡しても、保管に自信が無いので、卒園生のスマホに予防接種の結果を撮影して、自己管理してもらっている施設もありました。10年以上前の健康手帳開発時にもアプリにすることも考えました

がスマホ変更時のデータ移行を考慮すると、児童養護施設でデータを保管する方法を採用して、卒園する児童には「健康手帳」を冊子体で渡しています。

3年間で高校を卒業して、進学や就職で児童養護施設から卒園するだけではなく、5年制の通信制高校を卒業するまで施設に在籍して自立する人、自立訓練棟で施設の中で就労訓練を受ける人など、巣立ちの時期は年齢ではなく弾力的になってきました。また、卒園後にグループホームに入所する人もいます。自立前の健康管理や病院の受診の仕方等をオーダーメイドの教育を施設の担当者がしてくれています。

健康手帳を利用していない施設の卒園生にも体温計とバンドエイドを贈っています。

卒園生の子育て支援

児童養護施設を卒園した女性の子育て支援プロジェクトは、昨年7月から開始して1年、振り返りをしました。赤ちゃんは1歳になり、成長・発達は順調です。

「人と接するのが苦手」と自称する卒園生ですが、出身施設の協力を得て、卒園生の居住地の保健師や児童家庭支援センターの職員と家庭訪問に同行できました。また、連

絡調整の会議にも出身施設のアフターケア担当職員と出席しました。

生後半年過ぎの離乳食を初める時に、カボチャの裏ごしを、本会澤田が訪問して一緒に作りましたが、食材から購入して調理することを卒園生の食生活ではしていないので、手作り離乳食が可能か、地域の保健師と情報交換しながら進めました。

本会から既製の離乳食を送りましたが、長期的な子育てを考えると手作りができることも必要で、地域の児童家庭支援センターが卒園生を指導してくれました。

ワンオペ育児時間も長く、自分のご飯も1日2食の生活、金銭管理の課題も見えてきました。ゴールデンウィークには、出身施設へ親子で里帰りして気持ちが出せる時間ができました。出身施設が、育児を始めた卒園生が頼ってよい場所として機能しており、居住地域との橋渡し、関係形成とい

う役割を持っていることが明らかになりました。そして今回は「すこやか会ふくしま」が居住地域との情報共有を促進する役割をとれました。



里子版健康手帳の試作版ができました

【このノートを手にしたあなたへ】

このノートは、里親家庭で暮らす子どもの記録を書き留めるためのものです。あなたがこれまでの自分を確認し、未来へつなげていくことが目的です。あなたが自分の生い立ちや、自身の「なぜ?」を知りたいと求めた時に、このノートを見れば、自分の中の空白を知る手がかりとなるよう、真の事実を記録として残しておくことはとても大切なことです。これはあなたにとって守られるべき「知る権利」です。細やかな記録を、共に生活する里親があなたのためだけに作り上げる贈り物です。いつか、里親家庭を巣立つ時に、あなたが受けた愛情いっぱい思いを胸に、前向きに生きていくことを願っています。

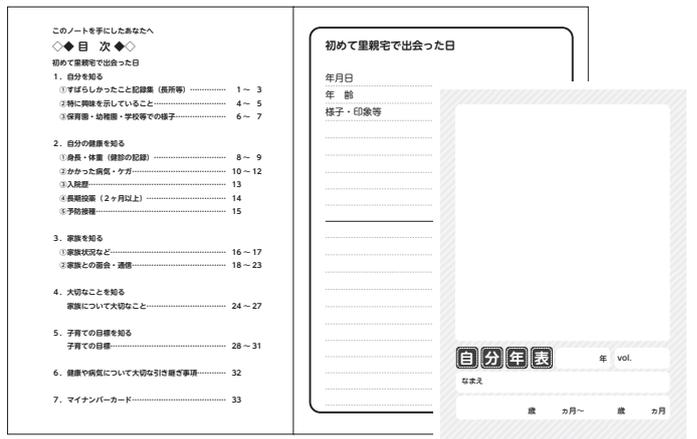


家庭で育てることができない子どもは、児童養護施設の他に里親、ファミリーホームである社会的養育のもとで生活しています。

本会が、2012年に活動を開始した頃は、児童養護施設で幼児

も生活していましたが、社会的養育の変革が始まり、幼い子どもは、より家庭的な環境である里親のもとで育つことが推進されて、同時に里親の育成がされています。本年5月の福島県内里親委託率は35.5%で、里親家庭で育つ子どもが増えています。

里子として育った子どもが、成長してから自分の育ち、生活、そして大切に育てられた記録をたどれるために、A5判のノート2冊で一組として作成しました。素晴らしかったこと興味を示していること、幼稚園・学校での様子、健康や病気等の健康情報、家族との記録、里親の子育ての願いなどを手書きで記録する「自分ノート」、もう1冊は「自分年



自分ノート

自分年表

表」(1年に1冊)で構成されています。里親から巣立った後に、子ども自身が自分を知る機会になること、そして自己肯定感を高めたいという里親の願いがこめられています。

5月から6人の里子(5組の里親さん)で記録を始めてもらい、半年で困ったことを洗い出して2026年からは福島の希望する里親さんにつかってもらえようように計画しています。

里親が子どもの記録を残すことを、里子が小学生になったら承諾を得て、使い続けることになっています。里子の養育者が変わるときに、養育者に引き継がれていけるように考えています。

卒園時期の延長、里親推進など里子や巣立ちの時期についての参考資料：子ども家庭庁「社会的養育の推進(令和7年4月)」



ご支援いただける活動へご寄附を

NPO 法人 ICA 福子へのご寄附

主な活動対象: 児童養護施設に入所している子ども向け事業
実施事業

- ・ 施設の災害対策や原発事故による教訓のまとめ
- ・ 被ばくモニタリング検査としての甲状腺検査
- ・ 健康手帳 贈呈事業
- ・ 卒園前の準備教育
- ・ 児童養護施設の看護師研究会の支援

一般社団法人すこやか会ふくしまへのご寄附

主な活動対象: 卒園した若者の健康を支える事業
実施事業

- ・ 甲状腺の検査を受ける卒園生への交通費補助
- ・ 健康診断(含 甲状腺検査)受診補助
- ・ 食料支援
- ・ 健康被害発生時の検査・治療

ゆうちょ銀行

店名: 二二九店(店番号 229) 種類: 当座預金

番号: 02220-2-118684

名称: 福島児童養護施設の子どもの健康を考える会

ゆうちょ銀行

店名: 二二九店(店番号 229) 種類: 当座預金

番号: 02230-5-128642

名称: 一般社団法人すこやか会ふくしま

感謝! ご寄附・未使用切手、会費納入を頂いた皆様 (順不同 敬称略)

▼NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会 (2024年11月21日~2025年5月30日)

国際基督教大学高校キリスト教活動委員会、日本基督教団 下落合教会、下落合教会学校、日本基督教団 南山教会、日本基督教団 名古屋東教会、日本基督教団 大泉教会、宗教法人 日本ルーテル教団、東光学園内 聖ルカ教会子ども礼拝、池上ルーテル教会、戸塚ルーテル教会、戸塚ルーテル教会学校、戸塚ルーテル教会附属幼稚園、社会福祉法人 堀川愛生園、児童養護施設 唐池学園募金箱、(株)山のハム工房グローバル、ミホプロジェクト祈りのコンサート、Casa d'angela 天使の募金(永見 亜矢子)、女性合唱かまくらの風、東京花みずき、へるす出版「小児看護」編集室 青木 雅子、秋山 道子、荒木 暁子、生田 和正、池口 佳子、石川 信克、石原 潔、石原 昌子、磯部 和子、猪熊 京子、岩崎 美里、宇井 志緒利、牛尾 幸世、榎本 順一、遠藤 優子、大川 記代子、大島 妙子、太田 信吉、太田 智恵子、太田 愛智、太田 綾子、大谷 俊樹、大谷 尚子、大塚 千織、大塚 哲朗、大橋 正明、大畑 美和子、大町 敬子、岡田 友子、沖 菜穂子、奥野 順子、小熊 三重子、数間 恵子、金澤 トシ子、金子 みどり、工藤 美子、神戸 信行、小松 美穂子、権田 倫子、近藤 真由美、佐川 真理子、笹鹿 美帆子、佐野 尚子、澤井 映美、澤田 稔、志賀 由美、重富 由美子、嶋津 徹・琴音、白鳥 まゆみ、塩飽 仁、菅波 靖夫、杉田 教夫、杉村 恵子、菅野 勇一郎、鈴木 栄一、鈴木 敏夫、銭谷 美幸、高橋 明男、高橋 千治・玲子、高橋 弘、高柳 允子、滝口 香奈子、武井 めぐみ、竹内 由美子、立川 洪介・満里、田上 文子、土屋 秀、津山 春香、中嶋隆宏・祐子、中田 勇二、中野 陽子、長松 康子、中山 珠枝、名取 智子、西垣 二一、橋場 みき子、畑野 研太郎、林 寛子、林原 健治、原瀬 岳・耕・里、原瀬 昌久、原瀬 光子、西脇 洗一、福島 洋子、細谷 たき子、本田 裕子、前島 忻治、前村 恵、舩岡 泉、増田 高子、松岡 恵、松平 信子、松原 悦子、丸 光恵、馬淵 由季子、三浦 美智子、三谷 美香、三原 翠、三宅 光子、宮田 美恵、宮原 多枝子、武藤 久美子、村川 佳代、村田 恵子、村本 淳子、桃井 紀子、柳澤 千恵子、山崎 慶子、山田 和子、山田 洋、湯浅 資之、吉村 勉、吉本 幸子、渡邊 智子、匿名3名
助成金: 日本ルーテル教団「健康手帳 体温計ほか贈呈事業」

▼一般社団法人 すこやか会ふくしま (2024年11月21日~2025年5月30日)

日本基督教団 夙川東教会、日本キリスト教団 西千葉教会、(株)山のハム工房グローバル 青木 理恵子、今井 真純、牛尾 幸世、内丸 ちづ子、大谷 尚子、沖 菜穂子、太田 信吉、大塚 千織、小熊 三重子、小田 美乃里、小尾 尚子、金子 みどり、工藤 美子、近藤 真由美、佐川 真理子、澤井 映美、志賀 由美、清水 清美、柴田 恵子、白鳥 まゆみ、菅波 靖夫、高坂 美枝、高山 喜美子、武井 陽一・めぐみ、立川洪介・満里、田中 とよ美、東條 めぐみ、長島 令子、鳴海 喜代子、西口 徹、畑野 研太郎、林 寛子、林原 健治、細谷 たき子、前島 忻治、舩岡 泉、増田 高子、町田 洋子、馬淵 由季子、三原 翠、三宅 光子、武藤 久美子、村田 貴志子、村田 恵子、村川 佳代、安江 真佐子、山縣 敦子、山崎 慶子、山田 和子、吉本 幸子、吉村 勉、渡邊 智子

NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

代表理事 澤田 和美 (福島事務所 事務局長)、塩飽 仁 (東北大学大学院 小児看護学 教授)

連絡先・Email fukujidou@yahoo.co.jp ホームページ <http://www.fukujidou.org/>

一般社団法人 すこやか会ふくしま

代表理事 齋藤 久夫 (元 児童養護施設 福島愛育園 施設長)

連絡先・Email fsukoyaka@yahoo.co.jp ホームページ <http://www.sukoyaka-f.org/>

共同事務所: 住所 〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5 メゾンオーブC203

電話・FAX: 024-573-2939